

司会

それでは、参加者の方々がいらっしゃいましたので、進めていきたいと思います。本日の司会を務めます、株式会社ツナグムの坂井と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

(拍手)

司会

ありがとうございます。では少し簡単ではございますが、自己紹介をさせていただきます。

京都移住計画という、京都に移り住んでくる際のサポートや移り住んできた先の暮らしを共につくっていくというようなコミュニティメディアを形成しています。出身は東京で、大学の6年間は京都に住んでいました。いずれまた子育てをするタイミングで帰ってきたいなという思いで、子どもが生まれた時に京都に帰ってきました。

東山区には、昨年度から関わらせていただいております。私自身も移住した身として、住むまち東山未来をつくっていくというのがテーマのひとつとなっていますけれども、東山区は観光のイメージが強く、まだまだ住む目線での魅力が皆さんからたくさん発掘できるのではと思っています。本日プレゼンターの皆様や御参加いただいた皆様のお声をお聞きしながら、東山区の魅力を伝えていければと思っています。

それでは、本日の流れとしては、最初に交流会の元となる東山区の住んでこそ！東山プロジェクトの説明をし、その後に今回御協力いただいている東山くらしよしの小原さんにオープニングトークを務めていただきます。そして、東山区内で色々な取組をされている方々、様々なジャンルの方々をお招きしておりますので、プレゼンテーションしていただき、その後に皆さんとの交流の時間を設けて、20時半に締めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

司会

最初に、折角なので近くにお座りの方々と少し自己紹介の時間をつくっていききたいと思います。区内の方、区外の方たくさん色々なところから来られていると思います。区内在住の方は本日どれくらいいらっしゃるか教えていただけますか？区外在住の方？結構外からの方が多いですね。何か東山区でプロジェクトや活動をされている方、あるいは仕事場が東山区という方どれくらいいらっしゃいますか？皆さん、色々な場所からいらっしゃっていますね。

参加した動機や背景について気になることもあるかと思いますので、お近くの方同士で3、4人ずつに分かれて、輪になって、できれば初めましての方々とお話してみてください。

周りの方々と目を合わせていただきながら、初めましてと3分ほどお話しを取りますので、お互いに気軽に交流してくださいね。お名前とどちらからいらっしゃったかを教えていただければと思います。ひと言ずつ自己紹介していただければと思います。3分くらいの短い時間ですが、楽しんでいただければと思います。では、始めてください。

(交流タイム)

司会

一旦皆さんきりのよいタイミング掴めないと思いますけれども、一旦、前の方を見ていただいてもいいですか。後ほどまた交流会の時間を設けておりますので、プレゼンターの方々のお話も含めて、たくさんの方々と繋がっていただければと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。ハッシュタグはみらひがしです。

最初に、今回の交流会を開催するきっかけとなった、住んでこそ！東山プロジェクトについての説明を、区役所の和田野さんをお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。」

東山区役所

皆様、本日はお集まりいただきましてありがとうございます。簡単ではございますが、住んでこそ！東山プロジェクトというプロジェクトについて御説明をさせていただきたいと思います。

今回の交流会の基となっている住んでこそ！東山プロジェクトは、令和3年度に区民の皆様の意見を集結させて決めた東山区の基本計画の筆頭に掲げている取組です。当時は、東山区の人口減少をなんとかしないと、という区民の皆様の危機感から、このプロジェクトが筆頭に挙がっております。

現在では、京都市内全域で人口減少についての取組が進んでいまして、今回一緒に本交流会を企画いただきました東山くらしよしさん、ツナグムさんも、京都市の移住・定住応援団という京都市全体での取組に賛同していただいている方々です。

プロジェクトは、住みたいと思える状況を作るというソフト面と、住みたい場所を探すというハード面、そしてその取組をみんなで協力するという3本柱で進めております。その3本柱を区外の人目線で見ると、東山区の住む魅力を知ってもらうとか住む環境や魅力を体験してハードルを解消していく、実際に住むの3ステップで、そのステップに応じた取組を模索中というようなところなんです。

その取組は、区内の目線になりますと、現状の魅力の再発見や使っていない住宅の活用の促進につながる取組と連動しております。具体的に、もうざっとなんですけれども、これまで皆様と取り組んできたことの一部を御紹介させていただきたいと思います。

まず、みんなと協力するっていうところの取組といたしましては、今回のみらびがしもその1つで、東山区で何かしようかなと思っておられる方々の連携のきっかけとなることを期待して行っております。

これまでの協働プロジェクトという情報交換の場ですとか、公民連携として民間事業者の方と連携、路地施策や移住施策など、市全体の施策と連携を皆様の御協力の下、進めております。

ソフト面なんですけれども、東山区にお試しで住んでもらって、東山区の魅力を実感してもらおうというお試し居住については、区内各所で計画されていて、実施され出しております。

また、東山の魅力を発信するホームページやInstagramは、観光客目線じゃなくて、住んでいるからこそ知っている東山の魅力をどんどん発信していこうという風な形にしております。また、移住希望者のまちあるきなども、していただいているところもあります。

区内で魅力的な活動をされている団体や拠点をまちじゅう宝箱として紹介したり、移動販売などの買い物支援や子育て支援をしたり、住みやすいまちづくりの一環としてソフト事業については行っております。

ハード面なんですけれども、路地の空き家やワンルームマンション空室が東山区ならではの特征なので、空き家予防のための相談会や活用アイデアの募集により、こういう視点で何か考えてみようかと思っただけのような取組を行っておりますし、まちづくり活動としての空き家対策は、本日も来ていただいている方もいらっしゃいますが、空き家対策として各地域で行っていただいているところも多くございます。

観光面でも人気の東山区はとて京都らしいところで、その表裏一体としてそこに生活しておられる、または関わられておられる皆様があつての魅力かと思えます。

本日は、この人の活動、この後も追いかけてみたいとか、何か一緒にしてみようかななど、何か皆様に持って帰っていただける機会になると幸いです。

あとは宣伝なんですけれども、区のInstagramのアカウントやホームページアドレス、お配りした名刺カードに記載されておりますので、是非ともまた御覧いただけたらと思います。

簡単ですが、説明を終わらせていただきます。

司会

和田野さんありがとうございます。今御説明いただいたような、住んでこそ！東山プロジェクトというものが3年前から走っています。

今回皆さんに覚えていただきやすいように、交流会を略称でみらひがしと呼んでおります。

東山で、既に活動していらっしゃる方も、外から何か関わりたいという方も、本日たくさんの方々がいらっしゃっているかと思えます。プロジェクトや活動に直接関わりたいということが出てくるかもしれませんし、私もこういうことやっているから、皆さんに知ってほしいという方もいらっしゃるかと思えます。そういった方々がつながって、応援したり、連携が生まれたりするような場として未来の住むまち東山をつくる交流会を開催させていただいております。

こちら左側が東山区の地図ですが、色々な学区に分かれていて、北と南で全然違った活動を、似ているテーマでも異なる活動をされています。そういったところがしっかりとつながりながら、地域を越えて、枠を超えて、連携できるような取組までつながっていければと思っています。

こちらの住んでこそ！東山プロジェクトは、記事にもさせていただきまして、人口減少から人口流入へ住むまち東山の魅力を伝えるというテーマで取材もさせていただいておりますので、よろしければ、こちらも御覧いただければと思っております。

後ほどプレゼンテーションしていただく小原さんにもこちら御協力をいただいております。実際にこの後、オープニングトークにも移っていきたいと思います。

最初に、東山くらしよしの代表を務めておられる小原さんに少し活動の御紹介や、東山区に対する思いを御協力いただいている団体さんとして御紹介いただければと思っておりますので、小原さん前に出てきていただけますでしょうか。オープニングトークお任せしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

小原さん

はい、ありがとうございます。

(拍手)

小原さん

皆様こんばんは。改めまして私東山くらしよしという移住サポートチームをしております代表の小原と申します。漢字だとちいさいはらと書きますが、おばらやおはらと言われてしまうので、アピールしてこはらとひらがなで書いています。名前も良ければ覚えていただければと思えます。すみません、ちょっと1週間前にですね、ぎっくり腰をしまして、ちょっと座ってお話させていただけたらと思えます。

改めまして、小原と申します。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

この写真は東山の將軍塚ですね、東山山頂公園のところに、子ども2人と、正月の2日にですね、夫婦喧嘩しまして、子ども連れて山登ると、連れていった時の写真です。すごくすがすがしく写っておりますが、これが東山から見た景色ということで、ちょっとみんなに見てもらおうかなと思って、写真にしてみました。夫婦喧嘩のところはまた後でよかったですら突っ込んでみてください。

では自己紹介させていただきます。私は住まいが東山の南のほうで、月輪学区というところに住んでおります。有名な寺院だと泉涌寺さんがあるそばに住んでいます。仕事は不動産業を行っており、ルーミーというところでやっています。趣味は小山歩き、小さい山や丘を登って、景色を見て癒されて下りてくるという小一時間程度の山歩きです。活動はルーミー図書館という私設図書館、私で設立する図書館をしています。後ほど御紹介いたします。

今、東山くらしよしの代表としてお話ししておりますが、自身としては二つの活動を行っています。ひとつはスライドの右にあるルーミーという不動産業を行っております。不動産業と聞くと、「え？不動産してるの？」とか、「儲かっているの？」とか、色々聞かれますが、私一人で細々とやっているの、そんなに大して儲かってもないのですが、人と家をつなぐお手伝いだと思っています。ですので、あまり派手派手しい不動産ではないですが、小さな活動からしています。

もうひとつは、東山区まちじゅう図書館プロジェクトというもので、2020年に始めました。ちょうど、コロナの時、子ども二人育てながら、保育園も休業となり、外出規制もあったため、行き詰まっていた日々になんか地域でもっと楽しめることがあればいいのになという思いから、地域に図書館を作ってみんなで自由に使えたらいいなというところから、地域のお母さんと引っ越ししてきた時からよくしていただいているおばあさんと3人で始めた事業です。おうちの前に図書館を置いて、誰でも地域の人が借りられるという活動を始めました。おかげさまで、現在東山区で9カ所できまして、公的な図書館も良いし、私設の図書館も良いし、まちの中全体で本を読んだり、貸したり、コミュニケーションが生まれやすくなる機会になればと思い、3年目になりましたが、進めています。図書館に興味ある方がいらっしゃったら、声を掛けてください。

本題になります。東山くらしよしという東山のホンマの暮らしをお届けするというモットーで移住促進・移住支援をしています。

東山くらしよしというワードは、京都弁で〇〇しよしとありますが、暮らしてみたらどう？とか、暮らしたらええでとかそういった気持ちを名前に入れてあります。覚えていただけたらうれしいです。今、この写真に映っている3人のメインメンバーで取り組んでいます。なぜ東山くらしよしを作ったかということをお話させていただくと、京都市としての人口減少、東山の高齢化や少子化、住んでいる身としても問題や課題を抱えているという実感がありました。

個人の不動産業を通じて仕事仲間からいただいた言葉なのですが、不動産業は地域における人事課のような存在であり、地域に素敵なお店を誘致したり、マンションを紹介したり、いい人に入ってもらえると地域の方も安心されると思います。そういうことを思うと、不動産業は人事課的役割だなと思っています。重要な仕事だと思っています。決して自身の儲けだけのためではなく、地域のためにをモットーに私は仕事をしていきたいと思っています。それを開業したのが、2021年、2年前になりますが、一人で夢を語るだけでは現実にはなかなか遠く、現実にするためには仲間が必要だと感じました。

その時に素敵なお方にたくさん出会ったのですが、その中でもこの二人と一緒に、チームとして東山を盛り上げていきたいと思い、声を掛けたところ、いいよと一緒にやろうと言ってくれたので、3人でメインメンバーとなっております。みんな実際に東山に住んでいるため、リアルな東山の魅力を伝えることができます。良いところだけでなく、リアルな部分も共有できる、語れると思います、メンバーに誘ったというのもあります。それでは、メンバーの紹介に移りたいと思います。

1人は、南くんで、私を見守ってくれていますが、京都観光おもてなしコンシェルジュであったり、京都検定を持っていたり、京都の歴史やまちに詳しく、彼はまちあるき担当として、一緒にチームに入ってくれへんと声を掛けたところ、いいすけどと入ってくれ、メンバーの一人となりました。

もう1人後ろのほうで遠慮がちに座っておられますが、手を振ってくれています。もう一回手振ってください。富波さんです。東山五条、清水五条の駅から徒歩5分、少し南の場所にある「the kind」というゼロウエストショップ、食品の量り売りのお店とシェアキッチン・レンタルスペース、民泊等の複合施設を運営されています。彼女との出会いも私の励みになり、この三人で東山くらしよしをしています。

そこに加え、ムーチョさんいらっしゃいますか。ムーチョさん。ライター兼編集長という形で記事や御自身のオウンドメディアを立ち上げておられるカラムーチョ伊地知さんに一緒に手伝ってくれへんというお声掛けをしたところ、すごくいいお返事をいただき、関わっていただいています。

また、京都市まちづくりアドバイザーの天岡さん、後ろの方で番をさせていただいておりますが、私たちがまだまだ知らない行政のことや、地域のこういう人と出会いたいといった時に、繋ぎ手として、マネージャー的存在として関わっていただいています。

メンバー紹介は以上となりますが、実際に、東山くらしよしが何をしているかについてお話します。3人のメインメンバー、冨波さん、南くん、私で、東山を「めぐる、泊まる、住まい探し」の3本のサービスを行っています。

なぜこれらのサービスに絞ったかという、京都に憧れて、移住をしてきてくださる方々が、友達もおらず、話せる場もなく、わからない土地に来て、移住してから心細くなり、地元に戻る、また違うところに住むことになるのがとてももったいないと思っています。それがあれば、もっと東山を知り、お試しでも本当に良かったから家を探すというステップを踏んでも良いと思っています。そのために、我々が順番に紹介し、サポートする形で、「めぐる、泊まる、住まい探し」の3つのサービスを提供することにしました。

今、月1回の「くらしよしかフェ」という、誰でも気軽に移住に関する相談や情報交換ができる場を提供しています。同時に、まちあるきや子どもとの水遊びなど、小さくとも確かなコミュニティを形成し、地道に活動しています。11月はおにぎりカフェを開催し、子連れでわいわいと盛り上がっていました

このように東山くらしよしは令和5年の春に立ち上がり、カフェをしたり、まち歩きをしたり、色々行っていますが、広報や周知がまだまだ足りないことを実感しています。また、the kindというところで、お試し居住も考えています。お部屋もすごくきれいなところがありますが、ファミリーで移住希望者がいらしゃった時のお試し居住先になるかと言われたら、もう少しスペースがいるのかなと思います。

また、住まい探しについても、京都への移住を考えた時にいきなり東山くらしよしと検索してくれる人は誰もいないと思います。やはり、SUUMO やアットホームなどのポータルサイトを探して、条件で検索して、とある仲介会社に行かれると思います。なかなか私たちをすぐには選んでもらえないというところで、課題を感じています。

今このようにオープニングトークとしてお時間をいただいておりますが、私たちの課題を助けてくださいというよりは、お互い協力したいという思いから、オープニングトークを引き受けさせていただきました。例えば、区外の方でももう少し東山について知りたいよという方がいらしゃれば、東山くらしよしでまちあるきしているらしい、等と御紹介いただければとてもうれしいです。また移住希望のファミリーがいらしゃった時に、民泊ではなく、1棟貸しの貸家を持っているという方がいらしゃれば、そちらを私たちが紹介するというように、持ちつ持たれつな関係で東山を盛り上げていけたらと思います。このような思いで地道にやっている不動産屋さんもいるよというところでまた御紹介いただけたらうれしいです。私ではどうしても力不足の案件があった時には、ベテランの不動産会社におつなぎしたいと思います。そのような形で御協力できたらと思っています。

本日は、持ちつ持たれつ、協力し合うという交流会にもできたらと思っています。この後、プレゼンターの素敵な方々いらしゃるので、お話を聞いて、その後交流の時間では遠慮なさらず、私も遠慮なくいきますので、是非色々お話ししましょう。よろしくお願ひします。

みらひがしに御参加いただいた皆様に感謝を申し上げます。こんなにたくさんの方に来ていただけて、本当にうれしいです。だからこそ、たくさんいい思いや出会いをゲットして帰っていただきたいと思ひます。この後、ゲストトークに移りますが、本当に素晴らしいこの会場を、東山らしさ100%感じるこの会場をお貸しいただいた清水寺様にお礼申し上げます。ありがとうございます。では、この後ゲストトークに移っていきたく思います。お時間をいただきまして、本当にありがとうございました。

(拍手)

司会

はい、小原さんオープニングトークありがとうございました。あ、もうひと声。

小原さん

良かったらフォローしてください。

司会

是非皆さん Instagram チェックしていただければと思います。私も元々お話伺っていましたが、手の届く範囲で着実にサービス化されたり、地域に繋がる入り口づくりをされていたりという印象があります。

小原さんもおっしゃっていましたが、お互いのことを知り合い、紹介し合えるような関係性につながっていくといいなと思います。東山も広いですので、一つの団体で全てをカバーしようというより、お互いサポートし合えるところをサポートし合いながらという関係性ができればと思います。

小原さんもこの後の交流会まで御参加いただきますので、皆さんも小原さんも皆さんのことを知っていただいて、という時間になるといいなと思いました。小原さん改めてありがとうございました。

プレゼンテーションの時間に移ってまいります。本日 5 名の方々にプレゼンテーションをお願いしております。色々な方にお声掛けをさせていただきました。

簡単に御紹介させていただきますと、1 人目はプレゼンのテーマが「未来への種まき～1000market を通じて～、今回会場もお貸しいただいた清水寺法務部長の大西晶允さんに御登壇いただきます。その後は、株式会社白川まちづくり会社の前川千尋さん、「繋がりが繋がりを生む、令和の三丁目の夕日」というエモいタイトルで御登壇いただきます。その後、アトリエ立夏の志知さん、「六原の輪＜柔らかく、ゆるやかなコミュニティ＞で御登壇いただきます。4 番目の方が、一般社団法人エスコーラ共同代表理事の山口さん、「探究とコモンズ「本町エスコーラ」について」というので御登壇いただきます。最後は、陶芸家・陶芸プランナーの吉田さんに「東山区の伝統工芸・産業と向き合う」というタイトルで御登壇いただきます。

参加されている皆さんも得るものが違うかと思いますが、順番に、50 分ほどのお時間でお話を伺っていきたいと思います。ということで、改めてみらひがしの御感想などあれば、備忘録的につぶやいていただければと思います。まず、清水寺法務部長の大西様に御登壇いただければと思います。大西さんどうぞよろしく願いいたします。

(拍手)

大西さん

皆さん、こんばんは。初めましての方もたくさんいらっしゃるかと思いますが、7 分しか時間が無いということで、私がどんな人間かはあまり興味がないと思いますので、そのあたりは省略させていただきます。

清水寺では、このような感じで僧侶をさせていただいております。未来への種まきということで、すみません、失礼します。

お話をさせていただきたいんですけども、京都というと、全国各地の人が古いものを見に行く、趣きを感じに行く、なんか古きよき日本みたいな風に、思っておられる方が多いように思うんですけども、正直、東山で生まれ育った私からすると、別に我々、骨董品の中で生活してるわけじゃないんですよ。別に現在進行形で今生きている、お寺にしてもそうなんです。ここが重要文化財でここが国宝でと言われても、別に我々にとってはそんなことは二の次であって、毎日手を合わす場所であり、それは今使いやすくなければ、今の人間、皆さんに感じるものでなければ意味がないという風に思っています。

です、何かそういうところ、例えば清水寺でしたら 779 年って言って、今からですね、1200 年ほど前にできたお寺なんです。けど、古いと勝負したってしょうがないですね。東山と同じやと思っ
ているんですね。古いからいいのじゃなくて、その趣であったりとか、そういう古い良さもあるんだけれど、今の人たちがどうやって暮らしやすい環境になっているのか、またどういう魅力があるのかという、
そういうブランディングというか、価値を見出だせなければ、どれだけ東山に来て、来てって言っても、東
山に住んでんねんということが、1 つの自慢になるような場所にならなければいけないのかなと、そういう
風に思っています。

私は個人的に、左の写真とかもそうなんですけれども、マーケット、1000 マーケットっていうものをして
おります。これは、今、インバウンドと言って、日本各地、政府は、観光立国として海外からたくさんの方
を誘致しようとしていますけれども、その外国人が何しに来てるのかと言ったら、日本の文化的なもの、
歴史的なもの、技術、日本人の心とか、色々なものを感じに来ている。それを使って商売してる割には、
皆さん、それに対する保護する活動っていうのはどれだけしているのか。

清水寺を維持するのに年間何億かかっているか知っていますかっていうような感覚ですね。それで
商売するのはいいですけども、それって、先人たちの遺産で、嫌な言い方しますけれど、貯金を食べな
がら、貯金を切り崩しながら食わしてもらってるような形で、僕たちが今、未来に対して何を種まいてい
るのかっていうことをもう一度考えなければ、我々の子供や我々の孫、またその先の人たちはもう日本とい
う根無し草の中で生活しなければいけなくなる。

現に、清水寺のお堂ももう 2、30 年後には同じものが建てられないくらい職人さんはいないんですよ
ね。いないということは需要がないんだから、それはそれでいいんです。ただ、それを知らずに消えていっ
た後、「日本にはこんな素晴らしい技術があったらしい。へえー、すごいなそれ。復元しよう。いや、もう職
人さんいないし、無理や。」これはあまりにも寂しい。だから、我々がそれを知った上で、選択として、もう
これは時代と合わへんから、もうええよ、もう次の時代いこう、それはいいと思うんですね。清水の舞台
もいつまでも木造である必要ありますか。いや、もう木造じゃなくていいというみんなの選択の中で、次
鉄筋コンクリートになったら、それはその時代やと思うんです。だけれども、知らずに失われていくのは
寂しいからこそ、みんなに、1 人でも多くの方に広く知ってもらいたいという思いで開いてるのがこのマー
ケットです。

です、弘法さんとか天神さんとはまた全然違います。マーケットと言ってるんですけども、100 年
先に自分たちが残したいもの、残すべきもの、この地球とか我々生き物に対して、とても優しいものしか、
伝統工芸とはいえ、残らないと思ってるので、そういうものをみんな、世界、世界中の人たちに広く知っ
ていただく場として、このマーケットを運営しております。

その中で、ある種の問題提起の場という風にしております。毎月 28 日にやっています。曜日関係なく、
28 にやっています。清水寺の南苑といって、清水寺の南側の境内地でやっていますので、これだけ、東山
に関わる方いらっしゃるの、是非とも、毎月やっていますんで、いっぺんどんなもんか見に来て下さい。

逆に、「いや、うち、こんなあの売り込み情報あんねんけど」というようなことがあれば、ぜひまた紹介
もしていただきたいですし、ボランティアも、協賛企業も、どしどし募集しておりますので、それもお待ちし
ております。

こういう感じで、朝もミーティングするんですけども、もったいないことすんなって言ってるんですよ
ね、時間も労力もかけて、この 1 日、皆さんがやろうとしていることを、伝えたいことをやってるんやから、
座ってるだけじゃあかんで、声掛けよう、自分たちが例えば無農薬でやっていますとか、自分たちがこういう
伝統工芸でやっていますっていうようなことをもっともっと広く知っていただく場として作っていきましょうと
いうことをしてるのと同時に、私がどんだけまあ大きい声で喋ってたって、たかだか 2、30 年のことなの
で、やっぱり子供たちにそのことを伝えていかなければいけない。京都には、東山には、日本にはこんな素

晴らしいものがあるよということをやっぱり子どもたちに肌感覚で知ってもらいたいという思いで、職人さんたちを呼んで、例えばこれは和ろうそく屋さんに来てもらって、例えばこの仏像でも、作られた時代ってライトないんですね。ろうそくの光で見ている、その感覚ってどういうものか。それを子どもたちに体感させた上で、今スイッチ1つで電気つくけど、その電気どっから来てるか知ってるか。その電気どうやって作られてる。なんでじゃあ原発があかんの。じゃあ原発にどういう問題があるの。自分で考えよう。

日本人はあまりにも与えられたことをプロイラーのようにもらうだけで考えていない。だからこそ考えよう。子どもの頃から考える機会をたくさん作ろうっていうので、色々、感じたり、見せたり、体験させたりするようなことをしております。来春から、私、田んぼやろうと思ってるんですけど田んぼ、御存知の方あったら、また色々教えてください。そんな感じで、色々なこと、お寺というのは、ただただ見に来る場所ではなく、社会の中でどうコミュニケーションをとるか、どうコミュニティとして一緒にやっていくかという場所だと思っておりますので、清水寺が、今後も皆さんや関わる方、京都に関わる方、日本と関わる方と、色々な地域の方々と一緒に色々なことをしていけたらなと思っておりますので、忌憚のない御意見や、御相談などをいただけたらうれしいなと思っております。本日はありがとうございました。

司会

大西さん、時間もぴったりに終わっていただき、ありがとうございます。なかなか講話とかでない限り、こうしたお寺にお勤めの方のお話を聞く機会も、私自身も含めてですけど、ないかなと思います。

どうしても観光というイメージが強いのかもしれないですけども、実は、こういう地域に開かれた取組とかもたくさんしていらっしゃるし、そうしたところで、関わりしろとかも皆さん1000マーケットに出店するとか、遊びに来るとか含めてあるかなと思いますし、この寺子屋の取組もすごい全体的なことをされていらっしゃるなど、今すごく感じてますので、ぜひぜひ皆さんも、この後、繋がっていただければなと思っております。

大西さん、ありがとうございました。続きまして、タイトルが「繋がりが繋がりを生む、令和の三丁目の夕日」というので、前川さんに御登壇いただきます。前川さんどうぞよろしくお願いします。

(拍手)

前川さん

よろしく願いいたします。白川まちづくり会社の前川と申します。地元感あふれるまちで生活をしておりまして、様子を皆さんに紹介したいと考えています。

私は千葉県出身で、京都の大学を卒業後、メーカーに就職しました。しばらくは東京に住んでいましたが、コロナの影響で色々なことを考え、この先の人生を考えた時に、京都に戻りたいという気持ちが芽生え、去年12月に再び戻ってまいりました。

現在は東山三条にあります古川町商店街に所属しております。趣味は登山と日本酒です。小原さんとは異なり、私は大山を登るのが好きで、ザックに日本酒を担いで登ることもあつたりします。現在は白川まちづくり会社で運営している白川ライフアカデミアという地域のカルチャースクールのようなものがあり、そちらで日本酒の講座もしています。

現在は東山区に住んでおり、シェアハウスで暮らしています。真ん中の写真にありますようにとても国際色豊かな中で生活しています。周辺には長屋や平安神宮、知恩院があり、ザ京都のような地域で生活しています。今一緒に住んでいる仲間たちは、それぞれが日本に来る目的を持っています。

このような形で、すごく地元感あふれる生活をしてっていて、例えば、右上の彼女は、フランス人ですが、私たちが運営しているギター教室でギターを習っていて、先日商店街のお祭りで、ギターのライブを

やってくれました。その左のテル君は日系人、日系メキシコ人なんですけれども、彼は今ラーメン屋さんでバイトしながら、ギター教室の先生にスペイン語を教えるという仕事をしています。その左のドミニクが、スイス人で、彼はちょっとしたお小遣い稼ぎでウォーキングツアーをやっているんですけれども、そこで集めたお客さんを祇園白川ラーメンに、そのお客さんを連れていくという、彼はラーメンがすごく大好きで美味しいと自分と思うから、多くのお客さんを連れていくのだと、すごくボランティア精神があふれる感じですよ。右下のグアナはイタリア人なんですけれども、彼女は商店街のヘビーユーザーで、京山食品っていうお惣菜屋さんがあるんですけれども、そこでいつもお弁当を買ったり、愛麩というカフェがあるんですけどそこでアイスクリーム食べたり、困った時にはお店の人に助けってもらったりというような、皆さん、自分の生活だけじゃなくて、この地域に溶け込みながら、生活を楽しんでいる感じが、私的にはすごく面白いなと思って、傍から、ちょっと客観的に見えています。

私が所属しているまちづくり会社の役割としては、古川町商店街、及び粟田学区の地域活性化というところで、取組をしております。エリアとしては岡崎と祇園に挟まれた形であるエリアで、すごく便利な場所で、東山駅からすぐ近くのある場所にあります。

地域の課題を解決するためっていう風に取り組んでいるんですけれども、課題というと、多分もうこのエリアでも同じかと思いますが、人口問題であったり、空き家問題であったり、空き店舗問題であったり、商店街の中も後継者問題であったり、そういったところで頭を悩ませております。

この会社でやっていることとしては、外から元々住んでいる人たちと一緒に、外から人をどれだけ呼べるかで、このエリアをより広く知ってもらって、関係する人たち、交流できる人たちっていうのを、どんどん広げていこうという形で、こういった4つの、観光創生事業、地域活性化事業、アカデミアの事業、その他という形で軸を持って取組を続けております。

今はこのようなインバウンド向けの観光創生事業であったり、お祭りの企画、シニア向けのパソコン教室・携帯教室を開いています。また、先ほど申し上げた地域のカルチャースクール、知恩院さんと協力して、宗教的な活動にはなりますが、地域との連携というものを大事にされているお寺なので、協力しています。

これから目指す方向性としては、交流人口や関係人口、定住人口の増加に焦点を当て、特に関係人口の増加に注力しています。これからは、リピーターとしてエリアを訪れる人を増やすための活動や、定住を促進する取組をさらに進めていきます。

今年6月に、京都市移住・定住応援団に白川まちづくり会社として登録し、地域の空き家や空き店舗の有効活用に取り組んでいます。京都に来て感じる面白さは、空き家や空き店舗が立ち話や井戸端会議で出てきて、よく知っている人同士で物件を貸し借りする風景が広がっていることです。このような空き店舗の活用に関して、私たちの繋がりを通じて、持ち主に困っている人、そしてこのエリアに住みたい人々を結びつけていくことを目指しています。以上です。

(拍手)

司会

前川さん、ありがとうございます。古川町商店街に行ったら、前川さんを尋ねたり、地域案内などもされていたりするのでしょうか。

あそこに行かれたことがある方は、ランタンのイメージが強いのかなと思うんですけれども。商店街の脇道も含めてあの一帯が面白いエリアだなと思っていて。そういった情報は前川さんを尋ねたら、知れるのかなと。

前川さん

まちあるきやエリアの紹介も行っていますので、いつでも遊びに来てください。いつでもオープンな商店街なので。よろしくお願いします。

司会

前川さんありがとうございました。

(拍手)

司会

続きまして、「六原の輪、柔らかく、ゆるやかなコミュニティー」というタイトルからどのようなお話なのだろうという印象があるかもしれませんが、アトリエ立夏の志知さんにプレゼンテーションをお願いしたいと思います。志知さんどうぞよろしくお願いします。

志知さん

アトリエ立夏の志知希美と申します。緊張していますが、温かい目で見守っていただければうれしいです。今日は「六原の輪、柔らかく、ゆるやかなコミュニティー」についてお話しします。

アトリエ立夏というアトリエを構えておりまして、何をやっているかという指ぬきというものの作家をしています。なかなか聞きなれないと思うので、今日は現物を持ってきましたので、この中にDMと作品が入っているので、回していただけたらと思います。

指ぬきの作家で、2021年に六原学区の池殿町にオープンし、奈良から東山区に移住しました。毎月約30名の対面教室や累計100名以上のオンライン教室生に作り方を教えています。地域活動としては六原まちづくり委員会、自主防災、路地裏プロジェクトのメンバーをしています。

30代半ばで地域活動をしているのは珍しいと言われるのですが、仕事と連結する要素があり、指ぬきは現代に手芸として広まった絹糸でできたリングです。元々はお裁縫道具です。手芸というところが重要で、年齢や性別、職業を問わず、机を囲んで物作りを楽しむ側面があるのと、手芸の仲間は程よく近く、程よく遠い存在。だからどんなトピックも話しやすく、コミュニティが生まれやすいのが手芸の良さ。例えば、家で介護をしている人が月に1回来て、話をするとすごくほっとするというような感じでコミュニティが作られていきます。あとは、物作りに集中して、別にコミュニティに入らなくてもオッケー、作ることが好きというような繋がり方もできます。私の仕事は、入っても出ても構わない自由な心地よさ、柔らかく緩やかなコミュニティがキーワードになっています。

手芸の仲間を繋ぐ仕事をしているということで、オンライン教室の仲間と対面教室の参加者と一緒に作品展をしたり、アトリエ立夏の近足遠足という名前で例えば甘春堂さんの和菓子のワークショップに仲間を連れて行ったり、関係人口を増やしたいという気持ちもあり、大阪や東京に住む方にもこの地域を案内したり、といった活動もしています。

仕事自体が柔らかく緩やかなコミュニティのテーマでやっているなのでそこを大事に思っています。

ここから地域の活動の話になります。六原の輪に入る、ということで2021年に東山に移住・開店しましたが、その時、京都の漠然としたイメージがありいけずされるのでは、ということを感じながら移住をしています。偶然私の暖簾を開いてくれた方がいらっしゃってそことのつながりで六原の空き家対策の集まりに入ったり、自主防災の活動に繋がったりしていきました。その時、外から想像したこの地域のイメージと中との違いに驚きました。そこには、閉鎖的ではなく、地域をより良くしたい人たちの柔らかく緩やかな

コミュニティが広がっていて、風通しが良い、人がいいなというところで役に立ちたいという気持ちになりました。ですので仕事と地域活動に共通するものを感じたので、地域活動に参加しています。

地域から学んだことを仕事に生かしたい、仕事を通して地域に貢献したいという思いから、仕事の輪と六原の輪の両輪回しレッツゴーという気持ちで活動をしています。

活動の中で悩みもあり、仕事と地域活動の両立は時間的な制約があり、働き盛りの世代にとって難しい。周りを見てもこの世代の地域参加が少なく、今後の不安も感じています。キーワードは「仕事」と「地域活動」で、六原で働き、六原に住む仲間がもう少しこの地域に定着してくれば、移住にもつながりやすいと思っています。

お向かいに住まれているねこのびーるの橋本さんからの声掛けで、この地域で仕事をする店主の集まりを作ることになりました。それが、京都東山路地裏ディスカバリープロジェクトです。

今年まだ始まったばかりで、ステップ1では各お店の地域の定着、ステップ2では地域みんなが楽しめる交流の場を作る。ステップ3では地域で働きたい、住みたい店主の呼び込みという流れになると思っています。

現状はステップ1の段階で、地域のお店の定着ということで新しい仲間を探しています。新しい仲間を見つけるために、パンフレットを作るときに私も載せて欲しいですという店が増えると良いと思っています。お知り合いやお店がありましたらお願いします。

後、パンフレットを置かせてもらえる場所を開拓したいと思っています。是非、観光や地域の方が良く使う施設にパンフレットを置かせてもらえたらうれしいと思っています。

私としては、仕事の輪と六原の輪両輪の回し方の模索を続けることとこの地域の皆さんとのつながりを模索と同時に、この地域の皆さんとの繋がりを作っていけたらよいなと思っています。また、内職さんも募集しています。

司会

志知さんありがとうございました。路地裏プロジェクトがこれから始まるということで、路地裏で知っていないと行けないお店をやっています、知っているよという方は、志知さんにお声掛けいただければと思いますし、パンフレットもこれから作っていかれると思うので、実際どうということするの？等聞いていただきながら設置に御協力いただけそうな方は是非お声掛け頂ければと思います。志知さんありがとうございました。

司会

続きまして、「探究とコモンズ「本町エスコーラ」について」というタイトルで一般社団法人エスコーラ 共同代表理事の山口純さんに御登壇いただきます。山口さん、どうぞよろしくをお願いします。

山口さん

本町エスコーラについて話します。三十三間堂近くの線路があるあたりの路地裏の長屋をまとめて回収して運営しています。2014年度の京都市の「空き家活用×まちづくりモデルプロジェクト」です。これは当初の状態です。真ん中に見える長屋とひろばをまとめて大家さんから借りて、これをまた貸しする形で、現在は緑がこんな感じです。

これは、当初の募集チラシです。エスコーラは学校という意味で、共有空間を持った場所をみんなで、住んだり、使ったりしながら、その中で色々学びがあるという場所です。

基本的には、運営側と利用者側で分かれているのではなく、自治的に運営するというので、月1回ミーティングをして、こういう問題があってどうしようとかいう話をしています。

他に、色々ワークショップや話すイベントをしています。この写真に写ってる場所が共有の部屋です。左側にキッチンがあり、一緒にご飯食べますね。たまにイベントで「エスコーラ市」をやっています。

これは一番最近の先月撮ったものです。

エスコーラで出会った人たちが、結婚して、子供を産んでという感じになってます。子供の遊び場としてはふさわしいと思っています。

大地の再生というやり方で、庭師の人が入居しているので、土壌の工事をしている。食べられる植物も生えています。

DIYでなるべく、リノベーションしようということで、最初の頃、土間をレンガで作ったり、DIY イベントで屋根や壁を作ったりしました。

海外や日本国内のアーティストが、結構滞在して、制作したり、発表したり、イベントとかのパフォーマンスをしています。このことに関して、僕がどういうこと考えてるかということ、探求とコモンズです。探求という言葉で言いたいのは、アイデアを表現して、周りの人に聞いてもらって、応答してもらうということがすごく大事だと思う。それによって、世界観や価値観が変わっていく。そういった探究は、1人だけではできないのが「探究のコミュニティ」その辺りの話を「お金のために働く必要がなくなったら、何をしますか。」という本で、共著でエスコーラのことを書いている。

こういった探求が起きるためには、コモンズが要るのではないかな。資本主義社会でなかなかお金にならない探究は難しい。

振り返りとしては、例えば 共有空間運営するとどうしても喧嘩したり、誰がたくさん仕事したりしていた等があって、そういう中で、どれだけちゃんとルールを作るのか、あるいは作らないのか、あるいは、今日話したようなコンセプトに関してどれだけちゃんとカチツとするのかしないのか。あとは、先ほど話したように、仕事をする人、しない人が出てくる時に、みんなにとって必要な作業にお金を払うようにするのがいいのかな等こういった議論は尽きないです。

ある意味では、面倒くささを取り戻す実践なのかなと思っている。資本主義社会の中でお金を払えばなんでも解決できるというのは、面倒くささを多分減らしてるわけです。こうやって共有の場所を運営するというのはすごく面倒くさい。

今の大きな問題としては、定期借家契約が再来年で契約終了して、更新できるかわからない。

アナウンスとしては、空き室があるので入居したいという人も、1年かちょっとぐらいしかないかもしれないですけど、内覧に来てください。入居以外でも、広場活用に関わりたい人や、12月29日は大掃除と忘年会があるのでよろしかったらお越しください。エスコーラが再来年、どうなるかわからないですが、無くなってしまっても、こういった、コモンズ的なものを生み出すことを今後していきたいので、そういったことに関心がある人と繋がれたらうれしいです。

司会

山口さん、ありがとうございます。エスコーラって、行ったことある方どれくらいいらっしゃいますか。意外といらっしゃいますね。まだ行ったことないという方々は、東山の街中に森が出てきたみたいな感じで、おそらく最初行かれると、そういう印象を最初受けたのですけれども、こんな場所があるんだって、本当に不思議な空間に迷い込んだような気持ちになれて、ワクワクするような面白い場所なので、ぜひ行ってみたいなど思うんですけど、行きたいと思ったら、山口さんに連絡するで良いですか。

山口さん

そうでもいいですし、Facebook にエスコーラのページがあり、イベントのことなどがあり、そこから伺いましたら対応します。本町エスコーラで検索したら出てくると思います。

司会

Facebook の方で、御案内されているとのことなので、是非皆さんチェックしてみてください。山口さん、改めてありがとうございました。

各エリアにコモンズ等のコミュニティがあることが重要なことだと思います。そういったコミュニティ運営をしてみようという方が繋がっていただけたらよいと思います。

続きまして、陶芸家・陶芸プランナーの吉田瑞希さんです。「東山区の伝統工芸・産業と向き合う」です。吉田さんよろしくお願ひします。

吉田さん

皆さん、こんばんは。陶芸家・陶芸プランナーの吉田瑞希と申します。今日はどうぞよろしくお願ひします。すいません、座らせていただきます。

自己紹介させていただいた後、活動内容の、様々な活動させていただいてるんですけど、その中の2つを今回紹介させていただきたいと思います。最後にまとめさせていただきます。私は大阪出身で、家が窯元関係ではなくて、本当にただ美術が好きだった子どもだったところからスタートしております。京都造形芸術大学の陶芸コースで大学院まで言ってまして、その後、陶工専門校のところで1年間、ろくろを学びました。働きながら、京都女子大学のリカレント教育課程も行っておりました。

私の活動内容としては、普段、陶芸家と陶芸プランナーと2本立てで行っております。その紹介をさせていただきます。

まず、陶芸家としては、皆さんがイメージしているアーティストをイメージしてもらったらよいと思いますが、その中で私は、鍾馗さんという、屋根瓦にいる魔除けの神様を中心に、作陶を行っております。右側の写真が屋根瓦に置かれている鍾馗さんなのですが、そういった鍾馗さんを題材にした制作を行ったり、展示やイベント内容に合わせて、食器を手掛けたりということもやっております。これが私の普段作っている作品です。

こういった小さいミニ鍾馗さんっていうのを手がけることもやっております。

イベントは、例えば、父が和食の料理人というのもありますので、こちらは大原宝泉院というお寺の中の茶室をお借りして、一期一膳というタイトルで、この一膳の中で父の料理を盛ってもらいながら、器を楽しんでもらうというイベントをやったことがあります。

次に、陶芸プランナーなのですが、目的としては、忘れ去られた遺産であったり、文化や伝承、歴史であったりを再度確認してもらうためのきっかけ作りとして、アート視点で地域と向き合っていくという活動を、京都造形芸術大学の学生の時から行っておまして、それが今、私個人としても活動を行っております。

主に活動展は、まちあるきやインタビューであったり、イベントやワークショップの提案、企画を行っております。

その中の活動を2つ紹介させていただきたいと思います。まず1つ目が、手しごと職人のまち東山プロジェクトになります。

こちらは2008年から活動を開始しておまして、2012年からは伝統的な手しごとの活動を促進し、東山区の再発見から活性化を目指し、過去には京都芸術大学と東山区役所が合同でプロジェクト事業を行っておりました。

こちらのサイトにもありますので、よかったらまた御覧ください。主に、東山区の職人さんというのは、寺社仏閣が多く、商業・観光としての中心となっていることから、古くから多く、伝統産業の町として、職人さんが活動されております。

そういった職人さんたちが、やっぱり、跡継ぎ問題であったり、実際の作品であったり、商品が売れなかったりという大きなたくさんの課題がありまして、そういった職人さんたちを、いかに魅力を発信して、皆さんに知ってもらい、そしてより多くの方々が伝統工芸を手にとってもらうかっていうことを、現在、京都芸術大学の学生さんと協力しながら活動を行っております。

今回、今年の11月に東山区にある藤平陶芸登り窯の中で、こういったはし置きに、楽焼マーカというペンで絵付けをしてもらって、それをオープンに焼き付けてお持ち帰りできるワークショップとかっていうのも行っており、より伝統工芸を身近なものとしてやってもらえるような取組っていうのを行っていました。

次に、もう1つ目は、セラミックアトリエアブミを紹介させていただきます。こちらは今年の7月からシェアアトリエとして開始しております。現在は、馬町の交差点から東大路通りの大通りに面しておりますビルの一角でやっております。若手の陶芸家とともに作陶を励み、今後は展示や体験ワークショップを通じて、地域や観光客の方々が出入りできるオープンアトリエとして発展させていきたいと思っております。

こちらに関しては、まだこれからのところで、まだ何も無い状態なのですが、今現在、私ともう1人の後輩とともに、アトリエを運営して、最終的には、ここで地域の人たちが集まったり、陶芸体験をしていけたらと思っております。来年の春には実際オープンできるように頑張りたいと思っております。

今後の活動について、将来ありたい姿をお話しさせていただきたいと思っております。

楽しい気持ちになること、喜んでいただけるようなことを考えて、様々な人たちの思いを実現できるような形にしていくというのが私の役目かなと思っております。

こういうことをしたけどどうしたらいいかわからないとか、こういうことしたいんだけどどうしようかって困ってる人たちが手助けする存在だったり、問題解決っていうのができることによって、当たり前の日常に新しい発見をすると、生活の豊かさに繋がっていくのではないかなと思いつつ、日々私は活動を行っております。

先ほど紹介させていただいた陶芸家職人プロジェクト、シェアアトリエっていうことについても、皆さんにアナウンスしたいっていうのがありまして、陶芸家とシェアアトリエに関しては、これから、皆さんと何かやっていきたいという気持ちもありまして、陶芸を通して、何かこういうこと一緒にできないかとか、こういったイベント、ワークショップをできないでしょうかという、質問や御提案がありましたら、一緒にやっていきたいなと思っておりますので、いつでもお声掛けください。

出張等も私は普段行っておりますので、是非お声掛けください。職人プロジェクトなのですが、まだまだ東山区の職人さんというの調べきれていないこともありまして、こういった職人さんいるよとか、御紹介であったり、場合によっては、現在メンバー募集もしております。伝統産業に興味のある方、一緒に向き合いたいという方々を今探しておりますので、こちらよろしければ、是非お話できたらと思っております。

私の方から以上になります。御清聴ありがとうございました。

司会

吉田さん、ありがとうございます。なかなか、御自身で制作をされていらっしゃる方々は、職人さんって、どういう世界でどういうことされてるのかという印象が分からなかったりすると思うのですけれども、そういった活動を発信されているのがプロジェクトだったりするのかなと思いますし、もし、おそらくこの会場に来られるまでにも、窯元がいくつかあったというのは、記憶がある方いらっしゃるかもしれませんが、実は町にあって、そういうところを自分でつくるわけではないけれど、知ってみたいみたいなのという方は、是非この後お話聞いていただければと思います。

司会

御登壇いただいた、5名の皆様、ありがとうございました。